

1. 科目名 (単位数)	保育内容総論Ⅱ (2 単位)		3. 科目番号	S JMP4130
2. 授業担当教員	鈴木 美子			
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期	
6. 履修条件・他科目との関係	保育内容総論Ⅰを履修済みであること			
7. 講義概要	「保育内容総論」の授業内容をふまえて、その応用、発展的な学習を目指す。幼稚園実習及び保育所実習の経験を活用させ、グループワークを取り入れながら現場の保育内容について検証する。また、保育内容に関する知識・理解を深めるために、様々な保育実践事例を取り上げ、事例から子どもの発達の可能性を見いだす視点を養うと共にその保育内容について総合的に検証・評価する。			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもをとりまく社会的状況を理解し、説明することができる。</li> <li>・幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができる。</li> <li>・よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができる。</li> <li>・様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論することができる。</li> <li>・保育全体への視野を広げ、保育内容を総合的に検証・評価する力を身につける。</li> </ul>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児から5歳児の発達の特徴をまとめます。</li> <li>・保育の内容の教材研究の提出物と模擬保育を通した学びについてレポートを作成します。幼児の主体性を育む保育の在り方を、幼児が自ら遊びを進めたり生活を営んでいったりしようとする幼児の視点から考えられる眼を培いましょう。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】 『保育講座 保育のいとなみ 子ども理解と内容・方法』日本保育学会編 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館</p> <p>【参考資料】 幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園実習及び保育所実習経験をふまえて現場の保育内容を検証することができるか。</li> <li>2. よりよい保育内容を構築するための環境構成、指導・援助について考察することができるか。</li> <li>3. 様々な保育実践事例を通して、子どもの発達や学習の可能性を考察し、議論できるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加態度、課題への取り組み、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的授業態度 総合点の 30%</li> <li>2 課題への取り組み 総合点の 30%</li> <li>3 期末レポート 総合点の 40%</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	幼稚園教諭資格取得のための総合的な必修科目です。授業中のマナーや意欲、教育者（保育者）としての考え方などを大切にしたいと思います。知識や技術だけではなく教育者としての人格、資質を養うよう日常行動に気をつけましょう。自分から考え、他の人の良いところを学び、自己を向上させる積極的な姿勢を期待します。			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	「保育内容総論」で学んだことを振り返る 一幼稚園教育要領、保育所保育指針における教育の基本、及び各領域のねらい、内容、全体構造を中心に—	事前学習	「保育内容総論」のノート、テキストを参考にして学んだことを復習しておく。	
		事後学習	「保育内容総論」と「保育内容総論Ⅱ」の関係についてまとめておく。	
第 2 回	実習体験をふまえて、現場における保育内容を検証し、「省察」、「議論」することの意味を学ぶ—子ども理解への評価— (1)	事前学習	「保育内容総論」で学んだこと、実際の保育で生じた課題を整理しておく。	
		事後学習	保育内容について、「考え」、「理解」することの意味をまとめる。	
第 3 回	実習体験をふまえて、現場における保育内容を検証し、「省察」、「議論」することの意味を学ぶ—発達の見通しと言葉かけへの評価— (2)	事前学習	第 2 回で学んだことを復習しておく。	
		事後学習	保育内容を「実践」し、「省察」することの意味をまとめる。	
第 4 回	実習体験をふまえて、現場における保育内容を検証し、「省察」、「議論」することの意味を学ぶ—環境構成への評価— (3)	事前学習	第 3 回で学んだことを復習しておく。	
		事後学習	保育内容について、「議論」することの意味をまとめる。	
第 5 回	今日の乳・幼児・子どもを取り巻く社会状況の理解と家庭保育・教育と保育所保育、幼稚園教育、学校教育の関係について学ぶ (1)	事前学習	現代の乳幼児・子どもの保育、教育で問題になっていることを調べておく。	
		事後学習	現代の家庭保育・教育が抱えている問題点を整理しておく。	
第 6 回	「保育内容の総合性」と「室内環境」における教材研究を中心に指導案を作成する (1)	事前学習	「保育の基本」について復習しておく。	
		事後学習	「保育の基本」と「保育内容の総合性」、「保育の環境」についてまとめる。	
第 7 回	「保育内容の総合性」と「室外環境」における教材研究を中心に指導案を作成する (2)	事前学習	前回の授業をふまえて指導案を作成する。	
		事後学習	保育における「保育内容の総合性」「保育の環境」の重要性について復習する。	

第8回	6, 7回で作成した指導案をふまえた模擬保育の実践	事前学習	模擬保育のシミュレーションを行う。
		事後学習	模擬保育を振り返り、「保育内容の総合性」の視点から「保育の環境、指導・援助」について考察する。
第9回	保育実践事例を基に保育実践の動向を知り、乳幼児の発達と学習、保育内容について考える(1) ー乳児の学習と保育内容ー	事前学習	乳児保育について復習しておく
		事後学習	授業で採り上げた保育実践事例について自分の考えをまとめる。
第10回	保育実践事例を基に保育実践の動向を知り、乳幼児の発達と学習、保育内容について考える(2) ー幼児の学習と保育内容ー	事前学習	3, 4, 5才児の保育について復習しておく
		事後学習	授業で採り上げた保育実践事例について自分の考えをまとめる。
第11回	諸外国の保育と保育内容	事前学習	外国の保育について調べておく。
		事後学習	授業でとりあげた外国の保育内容から学べる事柄をまとめる。
第12回	各領域の関連性と保・幼・小連携	事前学習	保・幼・小の連携と接続について調べておく
		事後学習	保・幼・小の連携と接続の意味をまとめる。
第13回	保護者や地域との連携と保育内容	事前学習	実習先での保護者や地域連携の事例をまとめておく。
		事後学習	保護者や地域連携の意義と保育内容の関係をまとめる。
第14回	子どもとメディアー「保育内容総論」で学んだ基礎的内容をふまえて、保育教材の応用・展開としての情報機器の望ましい活用法を考えるー	事前学習	現代社会における情報機器の役割を考える。
		事後学習	保育教材として、メディアの望ましい活用法をまとめる。
第15回	授業のまとめ	事前学習	これまでの配付資料とノートを見直しておく。
		事後学習	15回の授業をふまえて、自身の学習課題を整理する。